

OCC メディカル・カフェ ニュースレター 『賢明な寛容:the wise patience』 第33号

2025年9月 発行『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』

ニュースレター第33号をお届けいたします。今号は樋野先生とスタッフの岡内が担当します。

『モデルケース』～『冗談を本気で記憶する胆力 & 心にかけて記憶する』

～

樋野興夫(順天堂大学名誉教授、新渡戸稻造記念センター長)



2025年9月13日 第140回【お茶の水メディカル・カフェ in お茶の水クリスチャン・センター (OCC)】に赴いた。筆者は別室で個人面談の時も与えられた。大変貴重な時となった。【お茶の水メディカル・カフェ】は、2012年5月26日に当時OCC副理事長であった榊原寛(1941-2020)先生が始められた。榊原寛先生の『お茶の水メディカル・カフェ』の案内文には、【『患者・医療スタッフ・専門家との対話を重視したサロン形式のカフェ』。提唱者は順天堂大学教授 樋野興夫先生。OCCでの開設がモデルケースとなればと願っています。】と紹介されている。

筆者は、2002年 山崎製パン総合クリエイションセンター(千葉県市川市)に於いて、講演の機会を与えられた。『医師の2つの使命～学術的な責任 & 人間的な責任～』の趣旨で語った。飯島延浩 山崎製パン社長も出席され、飯島延浩社長と講演する機会が与えられた。『リーダーの清々しい胆力』を学んだものである。会場は大盛況であった。そして、2011年 飯島延浩 山崎製パン社長から、榊原寛先生を紹介されたものである。順天堂大学医学部教授であった筆者にとっては、『隣接するOCCとの繋がりは不思議な人生の出会い』となつた。

この度、スタッフの『食いしん坊のコツメカワウソ(戸田裕子)』(本名: 可愛いオオカミ)様から『OCCニュースレター第33号』の原稿を依頼された。2024年には『12周年記念誌』が製本された。2026年は、第150回【お茶の水メディカル・カフェ in お茶の水クリスチャン・センター (OCC)】記念本が、企画される予感がする。『冗談を本気で記憶する胆力 = 常に志を忘れないよう 心にかけて記憶することである』を実感する日々である。

バス停でバスを待っていると、お腹が薄っすら赤いトンボが飛んでいました。九月になつても酷暑の日々が続いて夏のようですが、自然はちゃんと巡っているのだなあと少しほとしながら「お茶の水メディカル・カフェ」に向かいました。

樋野先生のお話に耳を傾けたあと、各テーブルに分かれて参加者の皆さま数人でお話しをします。カフェが始まった十数年前から変わらぬ風景でひと時を過ごします。今回は複数回の手術を経験なさり抗がん剤の治療を頑張っておられる方、つい先日がんが見つかり、これから手術、標準治療に臨まれる方など6名でのグループでした。

6人6通りの経緯があり、状況や気持ちがあります。心の中にあるものが言葉になつてお互いに共感、思いを語り合います。色々な事柄や気持ちを言葉にして話すことでも徐々に整っていく自分に気付けたりもします。あつという間に時が経ち、樋野先生のまとめのお話をみやげにして帰るころは、皆さん笑顔です。「ありがとうございました」「またね」など挨拶を交わして「今日のカフェ」が終わりました。

カフェは「誰かのために、誰かがいる」対話の「場」。これはカフェの先輩から頂いた「言葉」です。一期一会の本日のカフェの時間は二度とない、参加した皆さん全員でつくった掛け替えのないものです。十年以上も、その時々の参加者の方々が積み重ねてこられたサロンの今を、今の参加者の皆さん方と引き続き、素晴らしい時を重ねて行きたいと思います。

多摩川せせらぎメディカル・カフェ代表
お茶の水がん哲学外来・メディカルカフェ in OCC スタッフ 岡内泰子

